



はままつ文化芸術
活動助成事業
公益財団法人
浜松市文化振興財団
Hamamatsu Cultural Foundation

オムニバス音楽劇

朗読「耳なし芳一」

落語「死神」

芝居「ジキル博士とハイド氏」

魂 復 奇 譚

— B A N K A - K I T A N —

あの夏があなたを呼び続ける

2023 8・27 SUN

12:45 OPEN

13:30 START (16:00 終演予定)

アクトシティ浜松 中ホール

全席自由 | 3,000円

ピアノ | 田中恵子
フルート | 篠田 文
ソプラノ | 中島実紀
ピアノ・脚本演出 | 植村美有
落語家 | 立川談慶
俳優 | 清水 優
バリトン | 飯田裕之
ダンサー | 大前光市
エレクトーン | 池谷貴恵子
パーカッション | ジェラルドかわさき
サクソ | 鈴木龍聖

主催 | アルティザン

後援 | 浜松市、浜松市教育委員会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、ヤマハミュージックリテイリング浜松店、静岡県フルート協会、カワイ浜松、浜松百撰

助成 | (公財) 浜松市文化振興財団、(公財) 静岡県西部しんさん地域振興財団、(公信託) チョタ遠越準一文化振興財団基金



<http://www.hcf.or.jp/>

チケットお取扱い | アクトシティ浜松チケットセンター

チケットお問合せ | 090-5621-6093(田中)

artisan.hamamatsu@gmail.com

※チケットは右記のQRコードからもお求めいただけます。



芝居、落語、朗読.....各分野のスペシャリストが集結。

音楽を軸に、美しくも哀しく、そして恐ろしい物語を、アクティシティ浜松中ホールで。

耳なし芳一

[ダンサー | 大前光市、朗読 | 中島実紀]

安徳天皇と平家一門を祀った阿弥陀寺の領内を舞台とし、若き盲目の琵琶法師の芳一を主人公とする怪談。彼は平家物語の弾き語りが大層得意で、特に壇ノ浦の談は「鬼神も涙を流す」との評判であった。

ある夜、芳一が留守を守っていると、どこからともなく一人の武者が現れる。武者は「ある高貴な方の御前で弾き語りを披露してほしい」と芳一を誘い、寺から連れ出す。それから毎晩、琵琶を持った芳一が夜な夜などどこかに出かけるのを不審に思った住職が、あとをつけると、なんとそこには...

小泉八雲の『怪談』に所収され有名になった、日本古来の名作。

死神

[落語 | 立川談慶]

やることなすこと失敗続きでもう死ぬしか...と考える男が、ある老人に出会う。老人は、自らを死神だと話し、どんな重病人でも死神が足元に座っていればまだ寿命ではなく、逆に元気に見えても枕元にいる場合は死んでしまうのだと話す。半信半疑で男は医者を始めますが、死神の言う通りにすると、患者はみるみると元気になり...

初代三遊亭圓朝がグリム童話の『死神の名付け親』を翻案したもので、古典落語のひとつ。故立川談志の十八番の演目でもあったこのおかしくも恐ろしい演目を、立川談慶師匠の落語でお届けします。

ジキル博士とハイド氏

[芝居 | 俳優:清水優、オペラ歌手:飯田裕之]

舞台は19世紀のロンドン。すぐれた医学博士であるジキル氏の友人で、弁護士であるアタスは、ハイドという名の嫌悪感を呼び起こす醜悪な男と出会う。アタスは、ジキル博士が遺言状を書き直し、自身の遺産の相続人にハイド氏を指名していることを知り、大変驚く。話は進み、ある有名な人格者である代議士が殺される。容疑者としてハイドが浮上したことで、アタスはハイドを追い詰めようとする。

ハイドを追いかけた先、そこはジキル博士の屋敷から続く実験室だった...

人間の欲とは、燃え滾る執念とは。鬼気迫る生と死の交差を、俳優清水優、オペラ歌手飯田裕之のタッグでお楽しみください。



ダンサー
大前光市



落語家
立川談慶



俳優
清水優



オペラ歌手
飯田裕之

岐阜県出身。小学生の頃から新聞配達を10年以上続け、18歳から産経新聞奨学生として大阪芸術大学舞台芸術学科舞踊コースに通い卒業。卒業後にNoism04の最終オーディション直前に車に引かれ左足の膝下を切断するも、その後10年かけて様々なダンスや身体操作などを習得し国内外のコンクールにて賞を受賞し始める。2016年リオデジャネイロ・パラリンピック閉会式のソロ出演を機に一躍脚光を浴び、世界がガラリと変わる。第68回紅白歌合戦で平井堅と共演しそれをNHKスペシャルで特集され大きな反響を呼ぶ。東京2020オリンピック聖火ランナーにも選ばれ、東京2020パラリンピック開会式にもメインキャストとして出演。その年に自伝『ぼくらしく踊る』を学研プラスから出版。2023年には日本舞踊英御流の名取となり英御流光市を襲名する。

落語立川流真打で著述家。「本格派(本書く派)落語家」。慶應義塾大学卒業。1988年(株)ワコール入社も芸人の夢を諦めきれず1990年吉本興行福岡1期生オーディションに合格し所属となる。1991年(株)ワコールを退社、吉本興業も退所。立川流Aコースに入門「立川ワコール」を名乗る。2000年二つ目に昇進、師匠七代目立川談志による命名で「立川談慶」に改名、2005年真打昇進(慶應義塾大学卒初の真打)。趣味の筋トレは50歳を超える今でもベンチプレス100kg以上を上げる。著述業は落語家として異色の20冊を超える。

日本映画学校卒業後2005年俳優としてデビュー。幅広い演技力に定評あり。近年の主な出演作品に映画『無頼』(井筒和幸監督)『ある用務員』(阪元裕吾監督)『ケイコ目を澄ませて』(三宅唱監督)ドラマTX『記憶捜査3〜新宿東署事件ファイル〜』CX『監察医 朝顔2』舞台『蜘蛛巣城』(赤堀雅秋演出)@KAAT神奈川芸術劇場など。

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。在学中より、ドイツ、ウィーンのセミナーにてディプロマを取得、数々の音楽祭に出演。これまでに120作品・380公演以上のオペラ・オペレッタに出演。洗練された輝きのある声と歌唱力はもちろん、存在感のある舞台姿、また根っからの芝居好きで自在な演技でもたくさんの観客を魅了し、喝采を浴び続けているバリトン歌手である。小田原オペラ代表。

題字 | 中村誠

デザイン | 白石法久

写真 | 内藤真依子



エレクトーン
池谷貴恵子



パーカッション
ジェラルドかわさき



サクソ
鈴木龍聖



主催者チーム「アルティザン」 Artisan

浜松を中心に活躍する、ピアノ田中恵子、フルート篠田文、ソプラノ中島実紀、ピアノと脚本演出植村美有の四人によって2022年に結成された音楽家集団。過去に多くのコンサートや舞台での共演経験があるが、アルティザンとしての主催公演は今回が初めてとなる。

“アルティザン”とはフランス語でArtisan、“アーティスト”と比べるとやや地味で職人味の強い言葉だが、落語家や俳優などの素晴らしいゲストと一緒に開催する公演の中で、楽団のような形で地を固める役割を四人が担いたいとの思いから命名された。

フランスでは木工の工房や地図作りのお店の看板にも使われており、音楽、コンサートという枠に捉われない総合的な舞台創造を目指す。